

ベトナムバックマイ病院との活動 ～ベトナム北部における脳卒中センターのチーム医療体制 および地域連携強化事業から～

国立国際医療研究センター 国際医療協力局

土井 正彦

これまでこの“海外だより”には何度も掲載されたベトナムハノイにあるバックマイ病院との活動について、再び書かせていただきます。

バックマイ病院（以下BMH）は、ベトナム北部における保健省傘下のトップリファラル病院であり、様々な疾患の患者を受け入れに加え、北部の地域病院への指導や研修も行っています。このBMHと国立国際医療研究センター（NCGM）とは、2015年に協力協定を結び、研究（HIV/AIDS、多剤耐性結核、糖尿病等）や医療技術等国際展開推進事業（外科、救急、ICU等）、研修等の活動を実施しています。このうち脳卒中分野に関しては、2015年から医療技術等国際展開推進事業（展開事業）を通して、当時のNCGM国立国際医療研究センター病院副院長・脳卒中センター長の原徹男先生を責任者として、脳神経外科、リハビリテーション科、看護部、栄養センター、薬剤部を脳卒中チームとして、チーム医療の導入支援を行ってきました。その背景として、ベトナムでは死亡原因の7割を非感染性疾患が占め、その第一位は脳卒中となっています。その中で2020年11月にはBMH脳卒中センターが設立されました。BMHからは、脳卒中に対する継続的な技術支援の要請をNCGMでは受けており、コロナ禍にもオンラインでの症例検討や会議等も経て、2024年度も活動が行われております。

NCGM脳卒中センターとして脳神経外科、神経内科、リハビリテーション科、栄養管理室、看護部SCU（Stroke Care Unit）等の多職種のチームで脳卒中患者に関わることから、BMHでも脳卒中センターの立ち上げにあたり、関係部門や多職種が連携

して、脳卒中患者へのチーム医療の導入を進めてきました。この展開事業では、健康課題に資する研修事業となっていることを受けて、NCGMとBMHの関係するスタッフが相互に訪問して、NCGMスタッフがBMHスタッフに対して研修等を行っています。更にBMHは、ベトナム北部地域の医療機関へ研修等の役割を有していることから、BMHが知識や技術等を研修教材・資料や研修手法等を通して、ベトナム北部の医療機関へ拡げています。そして、近年、ベトナム北部の地方病院にも、脳卒中センターを設置されていることから、脳卒中チーム医療の事業はベトナム北部の地域医療連携の強化を目指しています。

これまで脳卒中に関して、この事業を通して、様々な成果（脳卒中患者登録・症例検討、脳卒中ガイドラインの作成支援、高次機能障害の評価、リハビリ装具製作、嚥下調整食の献立立案、脳卒中病態看護関連作成等の支援）が出ており、BMHをはじめ周辺地域の医療にも活かされています。これらの成果を具体的に紹介させていただきます。

脳神経外科・神経内科では、この事業が始まった時期からBMH脳卒中センター・神経センター医師が中心になりベトナム脳卒中ガイドラインが作成されてきました。NCGMとBMHの脳神経外科・神経内科では、定期的にオンラインを通して、症例検討を交互に行ってきています。脳卒中症例だけでなく、脳神経疾患の希少疾患等も症例に挙げられており、NCGM関係者としても学びの多い検討会になっております。今後、ベトナムの北部地域病院を交えての症例検討も企画されており、このような症例検討会

での発表がベトナム脳卒中医師の認定要件にもなることが検討されています。

リハビリテーションについては、これまでの活動でNCGMとBMHで協働に作成された『脳卒中の早期リハビリテーションテキスト』（以下、参考リンクあり）は、リハビリテーション研修として、BMHでの研修プログラムの1つになっています。既に、本事業の中でもいくつかの地域病院を訪問して、研修が実施されています。今年度、NCGMリハビリテーション科スタッフもベトナム北中部にあるゲアン省でのリハビリテーション研修に参加しています。

更に、今年度は、BMHリハビリテーションセンタースタッフが行う脳卒中による高次機能障害のある患者に対しての評価等にも立ち会い、評価後には、その結果についての話し合いをしています。

また循環器系疾患患者への心臓リハビリテーションへの支援等の活動も行われています。

栄養については、これまで脳卒中による機能障害として嚥下機能の低下があることから、そのような患者に対して、BMHの病院食として嚥下調整食の提供ができるように進めてきました。双方の脳卒中チームが栄養担当のみならず、チーム一体となって取り組んでいる活動の一つになっています。嚥下機能障害の評価、嚥下調整食の献立、患者への食事介助等、各職種の専門性と連携を活かすことで嚥下障

害のある患者へのケアがBMHでも行われることになっています。

このうち嚥下調整食を調理するにあたり、日本の医療機関や介護施設等で利用されているトロミ剤が、ベトナムには市場に販売されることが少なかったことから、これまでBMHでセミナーや研修をする機会を利用して、トロミ剤を扱う日系企業に協力いただき、トロミ剤を紹介する場を設ける等を作ってきました。その後、BMH病院食として、脳卒中患者のみならず、他疾患による嚥下困難な患者等にも提供されるようになってきました。コロナ禍で病院食の提供がなくなった時期がありましたが、現在では再開されるようになってきました。トロミ剤に関しては十分とはいえないまでも、ベトナム国内で入手することができるようになってきました。

加えて今年度、病院食等の減塩について栄養管理の必要性から、日本での減塩食の取り組みを紹介し、日本での減塩食材を利用した調理実習やBMHで提供されている病院食の塩分濃度を測定する等実施しています。

脳卒中看護について、これまでBMH脳卒中看護の看護研修計画、脳卒中病態関連図、脳卒中ケアブック作成等の支援を行ってきました。BMHでは、脳卒中患者に関わる部署（入院している病棟）として、脳卒中センターに加えて、神経内科センター、



BMH リハビリテーションセンターでの患者への高次機能評価

脳外科病棟、リハビリテーションセンターに看護師が勤務しております。コロナ禍で、BMH 看護師の異動等もありましたが、脳卒中患者看護の必要性から、看護師や看護スタッフへの再教育が BMH からのニーズとして挙がっていました。

そのようなことから、今年度は、日本の看護教育では一般的な患者体験を、BMH 看護師達にも体験し

てもらいました。各部門の看護師に患者に扮してもらい、患者の立場になって車いす移動や体位変換等を受けてもらいました。体験した看護師達からは「移動の際に不安があった」等の感想がありました。

2024 年度内に、今度は BMH 脳卒中チームが NCGM センター病院に訪問することが予定されています。



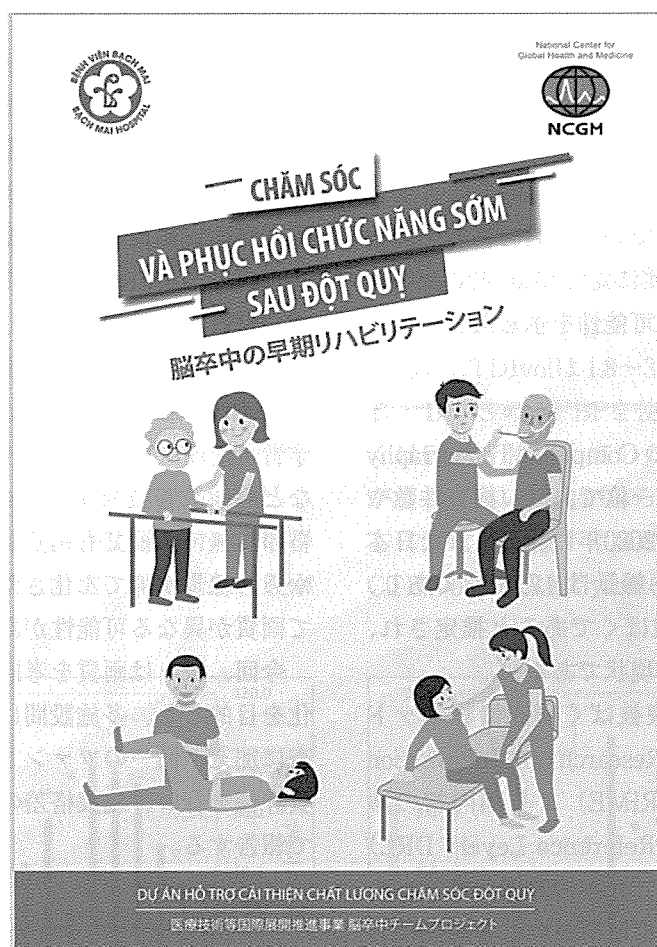
BMH 病院食の塩分測定



BMH 看護師との患者体験実習



2024年度 BMH 訪問時の NCGM と BMH との脳卒中事業関係者の集合写真



BMH と NCGM で作成の『脳卒中の早期リハビリテーションテキスト』

https://kyokuhp.ncgm.go.jp/library/tenkai/2020/20201118_Reha_BACHMAI.pdf

参照：

2023年度 ベトナム北部における脳卒中センターのチーム医療体制および地域連携強化事業報告書

https://kyokuhp.ncgm.go.jp/activity/open/R5webPDF/31_R5_NCGM_vietnam.pdf